

地域資本の利活用を軸にした 少子高齢社会における 新しいコミュニティマネジメント

東京大学まちづくり研究室教授
小泉秀樹



老朽化する公共施設に対しては、施設だけを取りあげてマネジメントを論ずるのではなく、公共施設を含めた地域・コミュニティの資源をどうマネジメントするかという視点が欠かせない。

一 本稿の狙い*

高度成長期に急速に整備された公共施設は、現在一斉に更新時期を迎えており、早急な老朽化対策が求められている。しかし、多額の更新・修繕費用が必要であるにも関わらず、税収の減収や社会保障費の増大から、財源確保の難しさとともに財政状況の悪化が懸念されている。また、日本では人口減少・少子・高齢化が著しいスピードで進むため、すべての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化やニーズに対応した整備を行うことが求められている。

その一方で、将来の人口減少、少子・高齢化社会を見据え、集

とした、現代的コミュニティマネジメントに展開するための道筋を明らかにしたい。

二 公共施設マネジメントの実態*

(一) 全国の公共施設マネジメントの取り組みの現状

二〇一三年一月三二日現在、全国一七四二市区町村のうち一五一自治体が、公共施設マネジメントに関連した政策文書を作成していた^{※3}。地域別の取り組み状況を見ると、関東地方、そのなかでもとくに一都三県にて取り組みが行われていた。これらの地域は、人口に比例して公共施設の総床面積が非常に大きいこと、また比較的早い時期に公共施設が整備されたことにより、老朽化が深刻になっていることから、早急な対策に迫られているためと考えられる。

(二) 公共施設マネジメントの概要

公共施設マネジメントは、多くの場合、「施設白書」基本計

こいずみ・ひびき

一九四六年東京生まれ。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了後、一九九七年から東京大学大学院講師（都市工学）、二〇〇〇年同助教を経て、二〇一三年より現職。研究成果を踏まえて多くの市民団体、自治体とまちづくり・コミュニティ・デザインの実践に取り組んでいる。また都市計画提案制度の創設に社会資本整備審議会委員として関わる。著書に『コミュニティ・デザイン』（編著、東京大学出版会）、『コミュニティ辞典』（編著、春風社）、『スマート・グロース』（編著、学芸出版社）、『まちづくり百科事典』（編著、丸善）ほか。グッドデザイン賞など受賞多数。研究室ウェブサイト <http://urc.ed.jp>

約型都市構造をはじめとした都市構造の転換を求める声もある。確かに、公共施設のみを取りあげてそのマネジメントを論じることは、自治体の財政支出の管理を行う上では有効な面がある。しかし、本質的な問題は、少子高齢社会や環境的な制約が増大するなかで、地域・コミュニティでの生活像・将来をどのように描き、またそこにむけて、公共施設をふくめた地域・コミュニティの資源を、どのようにマネジメントするのか、ということであろう。

本稿では、まず近年急速に普及しつつある公共施設マネジメントの実態を分析した上で、先端的な取り組みを取りあげて、現状での到達点を明らかにする。その上で、公共施設（政府の所有する）に限らない地域の物的資本（地域資本）の活用を基軸

画し実施計画」の順で行政文書を作成し、実施されている。しかし、実施計画まで策定している自治体は少ない。

基本計画に

て明確な原則・基本方針を定めている自治体は七八であり、それらの基本計画を対策目標に着目して分類を行うと図4となる。

図2で示した、「指定管

理者制度・P

FIなどのサ

ービスの見直

し」や「長寿

命化・耐震化

などの建築物

の見直し」財

図2 ● 対策目標に着目した基本計画の分類

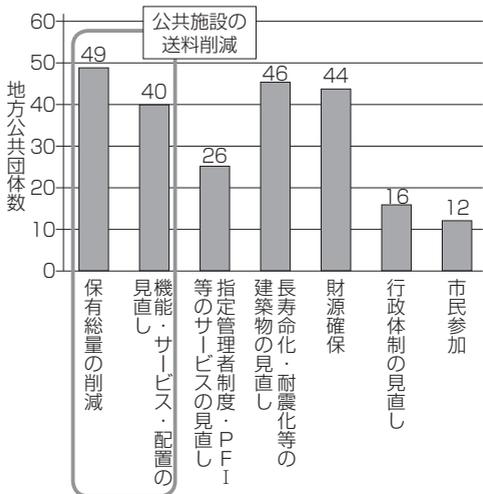


図1 ● 三段階別の計画策定状況

